

本試験では、現代文の知識事項に関する問題、論理的文章の読解問題の二大構成で、国語を通して身につける基礎知識と読解力を測る内容を出題します。
 レベル的には、高校の国語で扱う「基礎」標準レベルで、「問題Ⅰ」では基本的な漢字・語句の知識を幅広く問い、「問題Ⅱ」では論理的文章の内容や論の展開・要旨を、本文をもとに正しくとらえられるかを問います。

出題構成

| 大問 | 出題内容 | 配点 | 出題意図 |
|-------|----------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------|
| 【問題Ⅰ】 | 【現代文】知識事項に関する問題 (小問…5問) | 30点 | 漢字・語句・慣用表現・故事成語などに関する出題を通して、基礎知識の定着度を測ります。 |
| 【問題Ⅱ】 | 【現代文】文章の読解問題 (小問…7問程度) | 70点 | 3000～3500字程度の文章(論理的文章)をもとにした出題を通して、本文中の表現の意味内容や本文全体の趣旨を読み取る力を測ります。 |

次のページ以降は、実際の問題例の一部です。

〔問題Ⅰ〕

次の問一～問五に答えよ。

- 問一 次の(1)～(4)の傍線部のカタカナに当てはまる漢字を、それぞれの①～④の中から一つずつ選んで、その記号をマークせよ。問題番号は 1 ～ 4。
- (1) 友人の意見を、全面的にコウテイする。 1
- ① 行程 ② 公定 ③ 肯定 ④ 工程



例文中の語句について、正しく漢字に直したものを選べるかを問います。普段から同じ読み方をする漢字や形が似ている漢字に気をつけて学習すること、また、解答する際には、例文中での言葉の使われ方や選択肢の漢字が表す意味も手がかりにすることで、得点しやすくなります。

- 問二 次の(1)～(3)の傍線部の漢字の読み方として適当なものを、それぞれの①～④の中から一つずつ選んで、その記号をマークせよ。問題番号は 5 ～ 7。

- (1) 話している相手の顔を凝視する。 5
- ① ぎし ② ぎょうし ③ こし ④ ごうし



正しく漢字を読むことができるかを問います。問一と同様、基本的な漢字学習を積み重ねておきましょう。

- 問三 次の(1)～(3)の語句の意味として最も適当なものを、それぞれの①～④の中から一つずつ選んで、その記号をマークせよ。問題番号は 8 ～ 10。

- (1) 虚構 8
- ① 事実ではないことを、事実であるかのようににつくり上げること。
 ② 特定の時代において、多くの人々に支持され流行した現象のこと。
 ③ 物事の内容や価値が何もなく、むなしなこと。
 ④ 内容が伴っていないにもかかわらず、外見ばかりを飾ること。



国語の文章によく出てくる語句について、正しい意味を選べるかを問います。普段から意味がわからない言葉があれば確認するようにしておくことで、得点しやすくなります。

問四

次の(1)・(2)について、(1)は対義語の組み合わせ、(2)は類義語の組み合わせとして最も適当なものを、それぞれの①～④の中から一つずつ選んで、その記号をマークせよ。問題番号は ～ 。

- (1) ① 知識 — 認識
- ② 潜在 — 顕在
- ③ 専念 — 入念
- ④ 規制 — 統制



反対の意味を表す言葉と、似た意味を持つ言葉についての知識を問います。それぞれの言葉の意味や、漢字の意味も意識しながら対策をしておきましょう。

問五

次の(1)～(3)の に当てはまる慣用表現や故事成語として最も適当なもの、それぞれの①～④の中から一つずつ選んで、その記号をマークせよ。

問題番号は ～ 。

- (1) 彼は新人ながらも練習試合で 、皆が認めるチームの主力となった。

- ① 水を差し ② かぶとを脱ぎ ③ 尻馬に乗り ④ 頭角を現し



慣用表現や故事成語について、意味を理解したうえで正しく使えるかを問います。普段の学習では、言葉の意味を覚えるだけでなく、その言葉がどのような場面で使われるかをあわせて確認しておくことで、正答しやすくなります。

〔問題Ⅱ〕

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

3000～3500字程度の文章(論理的文章)が入ります。
(A4判で3ページ程度)

問一 二重傍線部A「匿名性」・B「プロセス」の文脈上の意味として最も適当なもの、それぞれの①～④の中から一つずつ選んで、その記号をマークせよ。問

題番号はAが 16 ・ Bが 17。

A 匿名性

- ① 生身の自分自身が特定されない状態であること。
- ② 個人的な意見や感想が伝わらない状態であること。
- ③ 相手との違いが明らかにされない状態であること。
- ④ 重要な情報が一般には知らされない状態であること。

B プロセス

- ① 相手との信頼関係を築くための工程や手順。
- ② 特定の目的を達成するための具体的な計画。
- ③ 伝えるべき情報を決めるための検討過程。
- ④ 意思疎通できるようにするためのきつかけ。



文脈を踏まえつつ本文中の語句の意味をとらえられるかを問います。語句自体の意味だけでなく、本文中の文脈・使われ方を意識することで、正答しやすくなります。

問二

空欄

ア

イ

の中からそれぞれ一つずつ選んで、その記号をマークせよ。問題番号は、アが

18 ・ イが 19。

- ① しかし
- ② そこで
- ③ つまり
- ④ ところで
- ⑤ たとえば
- ⑥ もちろん



本文中の空欄に当てはまる語句を把握できるかを問います。空欄前後の内容的つながり・関係を意識することで、正答しやすくなります。

問五

傍線部2「情報伝達の限界」とは、どのようなことか。最も適当なものを、

- 次の①～④の中から一つ選んで、その記号をマークせよ。問題番号は 22。
- ① 通信速度の制約により、データの送受信に時間差が発生している状態。
 - ② 言語以外の情報がないため、伝える情報の質や量が制限されている状態。
 - ③ 相手の感情を読み取る必要がなくなり、事務的な処理に終始する状態。
 - ④ 通常の携帯デバイスでは、相手のことが実際よりも小さく表示される状態。

問六

傍線部3「強制力が生まれざるを得ない」とあるが、なぜ筆者はそのように考えているのか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選んで、その記号をマークせよ。問題番号は 23。

- ① 対面のコミュニケーションでは、他者への共感が自然と引き出されるから。
- ② 直接向き合うと、相手の意見を否定することが心理的に難しくなるから。
- ③ コミュニケーションを続けるには、相手に同意しなければならぬから。
- ④ 対面形式では、厳格に定められたルールやマナーに従う必要があるから。



本文中の表現について、意味内容や、そのように表現する理由を把握できるかを問います。演習問題を通して、傍線部の前後を中心に確認しながら意味内容や理由をとらえる練習をしておきましょう。

問七

この文章について、筆者の主張に合致するものはどれか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選んで、その記号をマークせよ。問題番号は 24。

- ① デジタルコミュニケーションは誤解を生むリスクが高いため、今後はSN Sなどの利用はやめて、対面での会話に回帰すべきである。
- ② 効率求められる現代社会では、対面コミュニケーションは心理的コストが高すぎるため、デジタル技術への移行を目指すべきである。
- ③ デジタル技術の利便性は認めるが、人間本来の身体性を取り戻すために、重要な場面では対面コミュニケーションを選択すべきである。
- ④ 対面とデジタルのどちらが優れているかを議論するのではなく、目的や相手との関係性に応じて機械的に使い分ける技術を磨くべきである。



本文全体を通して、筆者の主張や論の展開を把握できるかを問います。「何について」「筆者はどんなことを言おうとしているのか」を常に意識しながら文章を読む練習を重ねることで、正答しやすくなります。